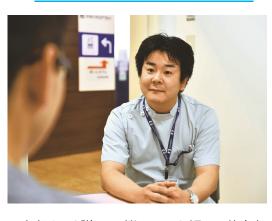




## 医療ソーシャルワーカー

■高崎総合医療センター

ソーシャルワーク室長 篠原純史さん



患者さんが抱える悩みに耳を傾け、伴走者になって解決への道筋を見いだすのが医療ソーシャルワーカー(MSW)。その仕事内容は経済的、心理的、社会的なものまでと多岐にわたります。

「患者さんの生活や思いにも目を配り、全体を見渡しながら支援や調整をしていく必要があります。だからモットーは患者さんと同じ目線に立つことです」

また、退院や社会復帰に関する相談をはじめ、児童虐待や自殺企図、アルコール依存症といったケースでは、患者が関わる環境や生活まで視野に入れ、きめ細かなケアをする必要があります。

MSW が果たす役割は確実に増しています。 こうした重要性を踏まえ、国立病院機構 (NHO) は 2015 年に全国 139 病院に配置 する MSW を 459 人にまで増やしました。

「病院完結型医療」から、保健・医療・福祉

1つの病院で療養の完結を目指す

が連携し、地域全体で患者を支える「地域完結型医療」が注目を集めています。「今後はこれを拡充する司令塔として、MSW の専門性とコーディネート力を生かした患者さん支援を目指していきます」。そのためにも

「MSW は地域を積極的に歩き、地域をベースに物事を考え、患者さんの揺れる心に寄り添っていくべきです」と強調。さらに、「地域包括ケアを定着させるためにも、地域や患者さんの要望に病院がどう応えるかという

発想が必要になるでしょう」と話しています。 (高崎総合医療センター=群馬県高崎市)